「つなひろ」を使った人材育成

①大学の日本語教育実習生
②国際交流協会の支援者

「つなひろ」を使ったOJTに挑戦
～はじめて日本語教育実習生を受け入れて～

日本語教育実習の課題

現在、日本語教育の類型化については国の施策として方向性が示され始めていますが、かねてから現場においても類型「生活」の多くを担う「地域日本語教育」の専門性をどのように養成、継承するかは課題となっていました。地域の日本語教室では学習者のニーズ・レディネス、出席状況などが一定ではないため、教師は即興で対応するよりほかなく、この状況は初任レベルの教師が関わりにくい状況を生んでいました。

当団体としても、人員を増やしたいと思いつつ、もう何年もこの課題は未解決のまま来てしまいました。そんな中、「静岡県立文化芸術大学の日本語教員養成課程の学生が実習先を探しているので、受け持ってもらえないか」というお話をいただきました。大学のほうはコロナ禍にあって、留学生の入国が止まっており、例年行ってきた留学生向けの実習ができないということでした。

「今しかない」と思いました。

類型「生活」に関する日本語教育について、きちんと継承したい…。それならば伝えられるように、形として残さなければ継承はできないと考えたからです。

大学の授業の単位として、日本語教師の資格取得として釣り合うほどの指導ができるかどうか不安はありましたが、挑戦しました。結果、学生たちの取組から私にとっても学びとして得たものがたくさんありました。この場をお借りして、実習受け入れ機関としての機会をいただいた静岡県立静岡文化芸術大学のご担当の先生・学生のお二人に感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

「つなひろ」を使ったOJTに挑戦
～はじめて日本語教育実習生を受け入れて～

講座参加

・実習時間(想定)…(教室補助:1.5 時間×13 回)+(教室実習 1.5 時間×2 回)=22.5 時間
・実習時間(実際)…(講座:2 時間×6回)+(教室補助:2 時間×4回)+(教室実習:2時間×2回)
=24時間

① 講座受講(2 時間×6 回)

	タイトル・内容	講師	日時	会場
1	「地域」日本語教育にまつわる施策から、求められる人材の今とこれからを知っておこう	・浜松市国際課 ・文化庁国語課 ・NPO 法人フィリピノナガイサ	9／20(月) 13:00～15:00	Zoom
2	海外の移民教育、複言語・複文化主義についても知っておこう	松岡洋子氏(岩手大学国際教育センター教授)	9／20(月) 15:30～17:30	Zoom
3	「ことば」の交流が生まれるレクリエーションをたくさん考えよう	萩元直樹氏(社会教育主事)	11／23(火) 13:00～15:00	Zoom
4	個人の学びを尊重し、自主・自律の精神を養う教育実践例を見てみよう	成田潤也氏(神奈川県教育委員会指導主事)	11／23(火) 15:30～17:30	Zoom
5	「地域」日本語教育に必要なファシリテーション力を身に付けよう	有田玲子氏(文化庁「つながるひろがるにほんごでのくらし」作成メンバー)	12／18(土) 13:00～15:00	Zoom
6	「地域」日本語教育におけるカリキュラム作成で大切なことを学び、それぞれの地域に還元しよう	有田玲子氏(文化庁「つながるひろがるにほんごでのくらし」作成メンバー)	12／18(土) 15:30～17:30	Zoom

★受講後、原稿用紙 1 枚程度のご感想を提出いただければと思います(1 週間以内)

授業参加

教室補助
11月6日・13日　浜名協働センター
12月4日・11日　南部協働センター

模擬授業
1月15日・22日

「つなひろ」を使ったOJTに挑戦
～はじめて日本語教育実習生を受け入れて～

～実習生Aさんのコメント～

・例文をリピートするだけでなく、「本当に使える日本語を勉強しているんだ」と思った

・このクラスは「読む・書く・聞く・話す」のすべての練習が含まれていたのが印象的だった
→飽きずに学習出来る上、色々な技法の勉強ができると感じた

・授業は柔らかい雰囲気だから居心地がよく、会話練習がしやすい
→失敗を恐れずに日本語に挑戦できる雰囲気がある
→学習者同士が仲良くなる雰囲気

・学習者の好奇心が大切にされている
→調べたいときに、自由に（各自のスマホで）調べてよい雰囲気がある
→学習へのモチベーションが上がる

・予定通りに授業を進めようと思い過ぎず、学習者の様子を見ながら柔軟でよいのだと感じた

・皆にとって、漢字は難しいのだと知った。いかに漢字を楽しく教えられるか？ということを考えておきたい

「つなひろ」を使ったOJTに挑戦
～はじめて日本語教育実習生を受け入れて～

～実習生Aさんのコメント（つづき）～

・「おなかが痛い」と「胃が痛い」の使い分けについて質問を受けた。英語ではこの2つの使い分けがないと知り、説明が難しかった。普段、何気なく使っている日本語の難しさを知った

・いろいろな表現が出てきてしまうと学習者は混乱するのではないかと思っていたけど、学習者の様子を見ていたら、うなずいたり納得している表情をしながら聞いていることに気づいた。（学習者はこれまで日常生活でたくさんの日本語に触れているため、記憶と関連づけながら落としこんで聞いているのではないか！？）
→文法を毎回詳しく説明しなくてもいいのだと感じた

・個々の学習の進度を把握しながら進めるのは簡単ではないと思うけど、意識していきたいと思うようになった

・互いの言語を教え合うような時間があったことが、とても印象的だった。日本語を教えるだけでなく、学習者の言語についても教えてもらう機会があることで、相互尊重の雰囲気が生まれるのだと気づいた

・学習者のノートを見て回って、即興で教えるのは難しい。でもあの時、もっと例題をいくつか挙げることはできたんじゃないかと思った

「つなひろ」を使ったOJTに挑戦
～はじめて日本語教育実習生を受け入れて～

～実習生Bさんのコメント～

・このクラスの学習者は気さくで、実習生としての不安が飛んだ

・「つなひろ」視聴にパワポを使わないことについて。学習者が個々に必要に応じて停止できるので、聞き取った単語を書きとるようなリスニングもできて便利だった

・コロナ対策のソーシャルディスタンスのレイアウトは、やりにくいと感じた。レイアウトは、大切なのだと感じた

・防災に関して、多言語版の資料をもらった学習者の様子を見て、それを渡すのは必要なことだと感じた。日本語を教えなければいけないと思い過ぎて、最終目標の「避難できる」というところを見落とさないようにしなければいけないということがわかった

・税金について学んだ後、ラップブックにまとめるワークは貴重な時間だと思いました。学習者の皆が楽しそうに作成に取り組む姿を見て、私も楽しくなった。ただ、日本語できちんと書けたかどうかの確認をしてあげる時間があれば、もっと良かったと思う

・英語だけがコミュニケーションツールだとは思わないが、しかし細かいニュアンスを英語で話したことでスムーズに意思疎通できた場面もあった。大事なのは学習者との意思疎通だと感じた

「つなひろ」を使ったOJTに挑戦
～はじめて日本語教育実習生を受け入れて～

～模擬授業について・Aさんのコメント～

・TT（チームティーチング）は、メイン講師の目が行き届かないところもサポートできる

・学習者の方々の表情や反応を確認しながら授業を進めるつもりだったけど、実際に前に出たらすごく緊張した。そんな中、自分が投げた質問に返答があって嬉しかった

・ごみカレンダーの勉強で、いっしょうけん命日本語で説明していたが、学習者からあっさり「こっち（タガログ語版）もあるよ」と言われてしまった。そりゃそうだ…と思った。ごみの捨て方を理解するという目的達成だけなら、翻訳したものがあればいいのだと気づいた

・ごみ捨てのテーマで、学習者がもっと話すという内容にすることが難しかった

・TTで、Bさんがやっている授業を見た時、学習者が納得した顔で授業を受けている姿が印象的だった

・TTの（先週のメインではなく、今週は）サブとして、余裕ができたため、こちらが教えるばかりにならずに学習者の話をたくさん聞くことができた

・このクラスに何度も通ううちに、学習者と関係性が築けた。学習者の生活についてよく知らないまま、こちらの教えたいことを押し付けるのはいけないことだと感じた

「つなひろ」を使ったOJTに挑戦
～はじめて日本語教育実習生を受け入れて～

～模擬授業について・Bさんのコメント～

・TT（チームティーチング）は、メイン講師の目が行き届かないところもサポートできる

・サブは冷静に落ち着いて授業に向き合えるので、学習者に対してもわかりやすく説明できたと思う

・例文を挙げるとき、自分一人ではなくTTでサブがいてくれると、自分以外の視点でも提案できるので、よりイメージが多角的になり伝わりやすい

・学習者からもせっかく出てきた言葉があったけど、うまく教室活動に取り入れられなかった。前に出てやってみると「後からこうすればよかった」と思うことが多い。学習者のポートフォリオを見て、クラスで習ったことを応用して作文してくれていたことに気づいた。授業の中で気づいて、クラスで共有すればよかったと思う

・授業を通して、日本の文化に親しみを持ってくれたことを知り、責任を感じる反面やりがいも感じた

今後、「つなひろ」を使って
やりたいこと

「つなひろ」を
「地域のつながりづくり」に活用したい

「つなひろ」のCan do!を注意深く読むと、次のような表記が複数見られます。

・あいさつができる・あいさつを交わすことができる・自己紹介ができる
・きくことができる・たずねることができる
・聞いて理解することができる・聞き取ることができる
・申し出ることができる・伝えることができる
・応答することができる
・希望・意思を伝えることができる・意思を示すことができる
・質問することができる
・(人に)確認することができる
・応答ができる
・(情報指示・追加情報を)求めることができる
・周囲のアドバイスを仰ぐことができる
・頼むことができる
・(救急車を)呼ぶことができる
・相談することができる
・(係員の)指示に従いながら、(貸出カードをつくることが)できる
・説明することができる
・受け答えができる
・やりとりが分かる
・助言を与えることができる・提案することができる
・感想を述べあうことができる

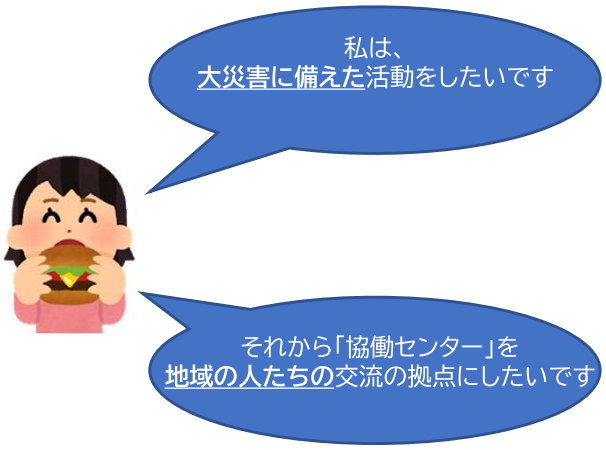
日本語教室だけで「できる」を完結できないという気づき

☆意思疎通に係る「できる」がほとんど。日本社会と接点を生み、共生社会理解の促進を図る目的の「ワーク活動」を取り入れていきたい。

☆例えば、「あいさつができる」は社会の構成員である私たち全員にとって必要な「できる」なのだと考えています。

いつも、こんなふうに自問自答し、
教室活動を考えています

地域や活動で
解決したいことややってみたいことは何だろうか



私たちの教室や地域には、どんなリソースがあるだろうか

BAYANIHAN

～みんなで地域をつくっていこう～

取組に関するキーワードの一部

理論やキーワードを勉強したあと、
現場ではどの部分にあたるのか、
実例を探して引き寄せて理解するように
しています。

その逆で、現場での事例から検索をかけ
て考えることもあります。

BAYANIHAN～みんなで地域をつくっていこう～

取組のキーワード

★i＋1
★アクティブラーニング
★アサーティブコミュニケーション

★意思疎通

★エポケー
★エンカウンター・グループ

★語り

★キャリア教育

★Can do!

★共感

★傾聴

★減災

★コミュニケーション

BAYANIHAN～みんなで地域をつくっていこう～
取組のキーワード

★自己一致

★自己効力感

★自己理解

★市民活動

★市民協働

★社会教育

★受容

★生涯教育

★自律学習

★スキャフォールディング

★相互尊重

★相互理解

★多文化共生

★知の循環型社会

★動機づけ

BAYANIHAN～みんなで地域をつくっていこう～
取組のキーワード

★ファシリテーション

★防災

★ポートフォリオ

★日本語教育

★やさしい日本語

★ライフキャリア

★ラポール形成

★リキャスト

★ルビンの盃